



どうする？どうなる？ 10 年後の瀬戸内海国立公園 ～卒寿を迎えた国立公園に寄せて～

関西学院大学総合政策学部 教授
佐山 浩

1. はじめに～90 歳となった瀬戸内海国立公園～

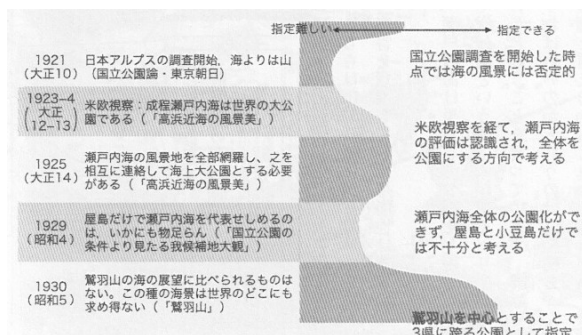
瀬戸内海国立公園は今年、卒寿を迎えた。1934(昭和 9)年 3 月 16 日に日本初の国立公園として、雲仙(現・雲仙天草)、霧島(現・霧島錦江湾)とともに産声を上げた。世界初のイエローストーン国立公園の登場から既に 62 年が過ぎていた。この経過した時間の長さを見ると我が国の国立公園誕生までの道は決して平坦ではなかったことは容易に想像できるのではないだろうか？

帝国議会での具体的な動きは 1910(明治 43)年から 1911(明治 44)年にかけてだった。世界最初の国立公園から既に 40 年ほど経過、第 27 回帝国議会である。貴族院に提出された「国庫ノ補助ヲ仰キ日光山ヲ公園ト為スノ請願」、そして衆議院の「日光山ヲ大日本帝国公園ト為スノ請願」や「国設大公園設置ニ関スル建議案」が契機となった。この「国設大公園」という言葉は「ナショナルパーク」を意識したものである。衆議院議事速記録第 22 号(明治 44 年 3 月 15 日)には「尚此原案ニハ富士山ヲ中心トシテ云々ト云フコトニナッテ居リマスガ、政府ガ既ニ此案ノ趣旨ヲ認メタ以上ハ成ルベク廣イ意味ニ之ヲ行ヒタイト云フノデ、此文字ヲ削除シテ、一般ニ及ボスコトニ致シタノデアリマス」とある。静岡出身の清釜太郎議員が提出した本建議は、明らかに郷土の霊峰であり、日本の象徴である富士山を意識したものだ。た。

その後、1921(大正 10)年に始められた内務省による国立公園候補地の調査は、関東大震災の影響もあって中断された。そして元号が昭和へと変わると国立公園に影響を与えた「新日本八景」のハガキ投票に国民が熱狂した。そして、内務省に国立公園調査会ができたのはアメリカから始まった世界的な大恐慌下のことであった。国立公園法が制定された 1931(昭和 6)年には満州事変が勃発、我が国が戦争へと突き進む時代の中、同時進行で最初の国立公園指定作業は進められた。国立公園は時代的にも最初から山あり谷ありの連続だった。

2. 瀬戸内海国立公園誕生に関わった二人の郷土の恩人

瀬戸内海国立公園の指定に至るまでの道も決して平坦ではなかった。瀬戸内海を除き、国立公園候補



地は山ばかりだった。他方、海の瀬戸内海は、あの鷲羽山からの風景が見いだされるまで、なかなか区域を決める決定的な風景が見いだせなかった。本国立公園が誕生したのは 2 人の恩人のお陰と言ってもいい。ともに郷土の偉人である。ひとりが現・香川県さぬき市出身で瀬戸内海国立公園の父とされる小西和、ひとりが現・岡山県倉敷市出身で国立公園の父とさ

図1 田村の言説からみる内海公園の考え方(水谷(2023)より)

れる田村剛である。小西和については、さ

ぬき市歴史民俗資料館の山本一伸さんが本号の別稿で詳しく紹介しているので、ここでは手短にしたい。小西の最大の功績を挙げるなら、何とんでも著書『瀬戸内海論』により、瀬戸内海の素晴らしさ、そしてこの地が世界の人々を引き付ける公園になる可能性があることを世間に広く知らしめたことである。他方、田村剛の最大の功績は、岡山県で治山事業を担当していた山本徳三郎や地質学者の脇水鉄五郎らによって見いだされつつあった鷺羽山からの風景(水谷(2023))に着目し、陸と海が一体となった塊の大風景を多島海の風景として国立公園の核に位置付けたことである(図1参照)。1932(昭和7)年10月3日付の山陽新報では瀬戸内海国立公園は「地域瀬戸内海中風光最も傑出せる備讃瀬戸を中心とするもので、中国四国の最も近接せる部分を含む、小豆島をはじめとして無数の島嶼基伏尾島豊島女木島、大槌島などの如き火山岩系統の島嶼を交える唯一の海上公園とす」(著者により新字体に変更)と紹介されている。

西田(1999)は『瀬戸内海の発見』の中で「伝統的風景から新たな近代的風景<内海多島海>をとりこむ動きが読みとれる。古くからの名所旧跡として有名な伝統的風景<小豆島><屋島>に伍して、新しい近代的風景<備讃瀬戸>が擡頭してきた」と指摘した。瀬戸内海国立公園の誕生は、まさに風景へのまなざしの変化を示す象徴的な出来事であった。

3. 時代の要請を受け続けてきた我が国の国立公園

本年6月25日に日高山脈襟裳十勝国立公園が新たに指定された。これで日本の国立公園は35か所になった。うち戦前の国立公園は瀬戸内海を含む12か所である。つまり戦後に23か所も増えている。この要因として国立公園が時代の要請に応え続けてきたことが挙げられる。1957(昭和32)年に国立公園法を引き継いだ自然公園法には国立公園は「我が国の風景を代表するに足る傑出した自然の風景地(海域の景観地を含む。…略…)であつて、環境大臣が第五条第一項の規定により指定するもの」(第二条第二号)と規定されている。簡単に言えば我が国の自然の風景地の日本代表が国立公園なのである。ただ時代からの要請はこれだけではなかった。国立公園法は1931(昭和6)年に制定されるが、法案を帝国議会に提出した際の理由書には「国立公園ヲ設定シ我が国天与ノ大風景ヲ保護開発シ一般ノ利用ニ供スルハ国民ノ保健休養上緊要ナル時務ニシテ且外客誘致ニ資スル所アリト認ム是本案ヲ提出スル所以ナリ」とある。世界的な大恐慌のなかで、最初から外国人観光客誘致による外貨獲得が期待された。

終戦後にも似たようなことが起きた。貴多野(2002)が「戦争で疲弊したわが国経済再建に外客観光振興が効果的であると考えられ、観光推進の民論が大きく起こり、そうしたなかで国立公園増設運動が全国に勃発」と指摘している。事実、1946(昭和21)年には伊勢志摩、1949(昭和24)年には上信越高原と支笏洞爺、1950(昭和25)年には秩父多摩(現・秩父多甲斐)、磐梯朝日が続いて指定されている。

1990年代に入ると地球環境問題への関心が高まり、「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」が同時期に採択された。これを梃にして生物多様性の保全と利用に関する様々な施策が講じられた。そして2002(平成14)年の自然公園法改正に際し、国等の責務に「生物多様性の確保」が追加され、更に2009(平成21)年6月には目的に「生物の多様性の確保に寄与すること」が加わった。世界大恐慌下の外貨獲得や戦後の観光振興、更に生物多様性保全等、国立公園への時代の要請は多様化してさらに重さを増している。

4. 観光の現状～そしてインバウンドへの期待～

国立公園制度を設立する大きな原動力となったインバウンドによる外貨獲得がウイズ・コロナ、アフターコロナへと社会が変化していく今、俄然注目を集めている。2024(令和6)年7月19日に開催された第24回観光立国推進閣僚会議の配付資料を見てみよう。国土交通省から提出された「観光の現状」に関する資料(図2参照)によると「2024年6月の訪日外国人旅行者数は、約314万人と単月として過去最高」「コロナ

前 2019 年同月比 109%の回復となり、昨年 10 月より 9 ヶ月連続で単月ではコロナ前の水準を回復」「2024

インバウンドの状況(旅行者数)

国土交通省

- 2024年6月の訪日外国人旅行者数は、約314万人と単月として過去最高。
- コロナ前2019年同月比109%の回復となり、昨年10月より9ヶ月連続で単月ではコロナ前の水準を回復。
- 2024年上半期のペースが下半期も続けば、2024年は3,500万人も視野に入る。



図2 「第 24 回観光立国推進閣僚会議資料」より

った、外国からの観光客による外貨獲得を達成する日は近いのかも知れない。

5. 100 周年に向けて～どうする？瀬戸内海国立公園～

前述の第 24 回観光立国推進閣僚会議の配付資料では、2023 年の外国人延べ宿泊者数が三大都市圏に集中(71. 5%)していることも指摘されていた。つまり都市圏に集中しているインバウンドを地方に分散させることが求められている。

瀬戸内海国立公園は、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、大分県の 1 府 10 県にまたがり、陸域 66,934ha に海域を合わせると 90 万 ha を超える日本最大の海型国立公園である。そして公園の内外に瀬戸内の風土に根ざした伝統的風景と近代的風景が調和した光景が広がる。

著者は『瀬戸内の日々の生活に根ざした身近な景観保全の取り組み』(2021 年、公益社団法人瀬戸内海環境保全協会)出版の一環で収集された「日々の生活に根ざした身近な景観と保全の取り組み」の状況から、「瀬戸内に残る身近な景観は、瀬戸内が持つ里山里海的で人の手によって維持されてきた自然環境や地勢の上で形成され、(i)国内に留まらない人や物資の移動(海と陸の回廊)、(ii)産業活動(農漁業、鉱工業(石と塩)、温泉ほか)、(iii)戦争・災害(防災)と復興などを背景に技術が進歩していくなかで人々の営みや生活から生み出されたもの」と書いた。

また著者と西田(2015)は、2010(平成 22)年から 3 年おきに開催されている瀬戸内国際芸術祭について「国際芸術祭は外なる遠景から内なる近景へと多島海へのまなざしの変化をおこし、同時に、島から眺望する新鮮な遠景を見いだした」ことを指摘した。



図3 ルビンの盃
芝田・山本(2024)より

これらをヒントに思いついた次の 10 年へのアイディアは、「ルビンの盃」(図3参照)を見るような感覚で「図」である国立公園区域と「地」である「瀬戸内海とそれに続く陸域」、その「図」と「地」の関係を時々に入れ替えながら「瀬戸内」地域を一体のものとして捉えて国内外の人々を迎え入れるという考え方である。

既に「せとうち」エリアは「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」の 11 エリアのひとつに選ばれている。せとうちエリアでは「世界に誇れる島嶼部の自然景観美、海と切り離せない歴史や暮らし、アートとの融合」をテーマとして、様々な試みが行われており、新たな事業も実現に向けて動き出している。

6. 「瀬戸内」はひとつ～「ひろがり」と「つながり」を盤石なものにする～

改めて注目したいのが瀬戸内をつなぐ橋の存在である。東から明石海峡大橋、大鳴門橋で淡路島を挟んで本州と四国は繋がっている。そして瀬戸大橋、しまなみ海道で本州と四国が繋がり、関門橋で本州と九州が繋がり、全体がひとつになっている。これらの橋のつながりが 8 の字を一筆書きするような旅の楽しみ方に深みを与えてメニューを豊かにしてくれる。

受け入れ側としては、橋のハードに海上交通網のソフトを強化し、瀬戸内海国立公園内外に展開する歩道網を設定していく。長距離自然歩道(みちのく潮風トレイル)は、三陸復興国立公園創設を核とした東日本大震災後のグリーン復興の大きな柱となっている。そして今年の元日に起こった能登半島地震復興のための石川県創造的復興プラン(仮称)では「SDGs トレイル(仮称)」が盛り込まれた。瀬戸内では海上交通網を取り込み、さらに自転車道も加えたユニークな海と陸の「みち」のネットワーク化を図ることで、公園の内と外の地域がつながり、人のつながり、情報のつながりが強化されていくことが期待できる。人のつながりでは特に関係人口に注目したい。関係人口とは簡単にいえば、特定の地域とつながりを持つ人口のことである。「ふるさと納税」「クラウドファンディング」などは、関係人口のあり方のひとつであり、有効に活用したい。さらに情報のつながりでは ICT やAIの活用も考えられる。将来を見据えたオーバーツーリズムの予防的措置としても有効になりうるであろう。

これらのつながりを支える基盤が瀬戸内の風土から生み出される食である。このエリアには日本を代表する農産物、海産物が沢山ある。豊かな食が瀬戸内の一体感をさらに醸成させることに違いない。食のつながりは地域の持続可能性と地域に住む方たちの誇りを高めていくはずである。誇りが地域を輝かせて、地域が持続していく。

7. おわりに:どうなる? 100 周年を迎える「瀬戸内」海国立公園 ～瀬戸内海は世界の宝石～

新渡戸稲造は、『瀬戸内海論』刊行に際して、「瀬戸内海は世界の宝石」と題する巻頭言を寄稿した。宝石はキラキラ輝く。「瀬戸内」を支える、この地域とここに住んでいる人たちが、「瀬戸内」海国立公園とともに更に輝きを増して、大きな節目を迎えることを切に願いつつ、筆をおくこととしたい。

【引用・参考文献】

- ・佐山浩(2022):国立公園および自然公園法の制定:造園大百科事典:朝倉書店
- ・小西和(1911):瀬戸内海論:文会堂書店
- ・水谷知生(2023):昭和初期の国立公園指定と瀬戸内海:輝ける讃岐人:公益財団法人山陽放送学術文化・スポーツ振興財団
- ・西田正憲(1999):瀬戸内海の発見 意味の風景から視覚の風景へ:中公新書
- ・貴多野乃武次(2002):観光振興とメディア-毎日新聞社による観光地百選イベント-:戦後日本のメディア・イベント:世界思想社
- ・佐山浩(2021)瀬戸内の人文景観の特徴と保全:瀬戸内の日々の生活に根ざした身近な景観保全の取り組み:公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
- ・佐山浩・西田正憲(2015):瀬戸内海固有の景観資産:瀬戸内海地域固有の景観資産の掘り起こしに関する調査研究:平成 25 年度福武財団瀬戸内海文化研究・活動支援助成
- ・観光立国推進閣僚会議資料(<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kankorikkoku/kaisai.html>)
- ・芝田征司・山本絵里子(2024):知覚・認知心理学入門:サイエンス社